東洋大学

広報課 〒112-8606 東京都文京区白山5丁目28-20　Tel 03-3945-7571　https://www.toyo.ac.jp/
学部 文学部／経済学部／経営学部／法学部／社会学部／国際学部／国際観光学部／情報連携学部／ライフデザイン学部／理工学部／総合情報学部／生命科学部／食環境科学部
大学院 文学研究科／社会学研究科／法学研究科／経営学研究科／理工学研究科／経済学研究科／国際学研究科／国際観光学研究科／社会福祉学研究科／生命科学研究科／ライフデザイン学研究科／学際・融合科学研究科／総合情報学研究科／食環境科学研究科／情報連携学研究科

建学の理念に通ずるSDGs貢献とDX推進でさらなる教育の質向上へ

学長
矢口 悦子

1956年生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科（博士課程）単位取得退学。博士（人文科学）。専門分野は社会教育学・生涯学習論。2003年４月から東洋大学文学部教授。社会貢献センター長、文学部長などを歴任し、20年４月から現職。

――全学を挙げてSDGsに取り組まれています。

東洋大学の創立者・井上円了は学問の成果を広く社会に還元するため、生涯学習や社会貢献活動に力を注ぎ、他者のために自己を磨く心を大切にしていました。このことは、現代でいうSDGsの根本理念にも通じるものです。今年６月には「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を定め、その目標達成のために、学生、教職員ともに多面的な取り組みを展開しています。研究面では、地球規模の課題解決に資する「東洋大学重点研究推進プログラム」で、７件の研究プロジェクトを進めています。本学は〝知の拠点〟として、地球社会の明るい未来づくりに貢献します。

――教育面でのDX推進にも積極的です。

本学の教育DX推進基本計画に基づく取り組みが文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択されました。中心となるのは、入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果による最適活用を行う「CLMS（Campus Life Management System）」です。学生が本学独自のアプリを通じて、学修ログやコメント分析による履修計画、学びの成果の振り返りや学生同士の交流を可能にする計画です。来年度から運用を開始する予定で、これにより教育改革を一段と推し進めたいと考えています。

――ウィズコロナを見据えた授業展開や学部再編についてお聞かせください。

ワクチン接種率が高まったことから、学生に豊かな学びを提供できるよう11月からは段階的に対面授業を増やしています。また、学生への経済的支援の継続とともに、学生・教員への多様な授業支援、心身の健康を維持するための各種相談窓口の充実、就職・留学に関するオンライン説明会の開催など、サポートを継続してまいります。

学部再編も進めており、今年度は赤羽台キャンパスにライフデザイン学部・研究科を移転。2023年度には福祉社会デザイン学部と健康スポーツ科学部を開設し、少子高齢化や健康問題といった社会課題の解決に努めます（※）。

（※）設置構想中。学部名は仮称であり、計画内容が変更になる可能性もあります。

駿河台大学

SURUGADAI UNIVERSITY

入試広報部 〒357-8555 埼玉県飯能市阿須698　Tel 042-972-1124　https://www.surugadai.ac.jp
学部 法学部（企業と法コース／警察・消防コース／法職・行政職公務員コース）／経済経営学部（経済と社会コース／経営と会計コース／観光＆国際ビジネスコース）／メディア情報学部（映像・音響分野／デジタルデザイン分野／図書館・アーカイブズ分野）／心理学部（臨床の心理コース／犯罪の心理コース／子どもの心理コース）／スポーツ科学部（スポーツ健康モデル／スポーツ教育モデル／地域スポーツモデル）
大学院 総合政策研究科（法学専攻／経済・経営学専攻／メディア情報学専攻）／心理学研究科（臨床心理学専攻／犯罪心理学専攻）

学生の成長を第一に考えた教育体制の構築など開学以来の地道な努力が大きな成果につながる。

学長
大森 一宏

早稲田大学政治経済学部卒業、同大学院にて博士（経済学）取得。主な専門分野は日本経済史、日本経営史。2006年４月駿河台大学経済学部（現経済経営学部）教授に就任。2012年４月から経済学部長、15年４月から副学長。19年４月に学長に就任。現在に至る。

――開学35周年を迎えられましたが。

中期５カ年計画として開学35周年に向けた「グランドデザイン2021」を策定し、「入学定員の確保」や「就職率の向上」、「学生支援の拡充」などの課題に取り組んできました。今まで経験したことのないコロナ禍という状況もありましたが、おかげさまで学生・教職員が一丸となり、地域の方々、卒業生の皆さんにもご支援をいただき着実に成果をあげることができました。また、インターンシップや資格研修などで多くの地元企業・施設のご協力を得て、学生たちの「社会人基礎力」の向上を今まで以上に図ることができました。これも本学が日頃から地域に密着した地道な教育・研究活動を続けてきた証左だと確信しています。

現在は35周年を通過点とし、さらに飛躍を目指した新グランドデザインを計画しています。

――コロナで得られた教訓などはありますか。

私たちの理念は「愛情教育」、学生と教職員のつながりを強化し、丁寧な指導・支援を通じて一人ひとりの学びを充実させることです。コロナの影響で対面での授業が困難になるなか、以前から導入していたe-ラーニングシステム・Moodle（ムードル）を活用し、感染状況に合わせてオンラインと対面授業を両立させてきました。授業の質を落とさず多彩な教育環境を確保できるよう、教員たちは何度も協議を重ね、また学生たちからの意見を数多く募り、そのフィードバックに努めてきました。これからはオンライン、対面型双方向の特性を生かし、アフターコロナも見据え、学生の成長を第一に考えた教育体制を構築していきます。

――「箱根駅伝」初出場を決めましたが。

2012年の「駅伝部」創設以来、徳本一善監督のもと歴代の部員たちが頑張って初出場を勝ち取りました。また、駅伝部以外でもスポーツ科学部の開設もあって硬式野球部や陸上競技部など、世界の舞台や国内トップクラスで活躍する学生を輩出しています。各部員たちの真摯な姿勢に敬意を表します。今後も駿河台大学にしかできない愛情教育を実践し、可能性に満ちた人材の育成に努めていきます。

専修大学

広報課 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8　Tel 03-3265-5819　https://www.senshu-u.ac.jp/
学部 経済学部／法学部／経営学部／商学部／文学部／ネットワーク情報学部／人間科学部／国際コミュニケーション学部
大学院 経済学研究科／法学研究科／文学研究科／経営学研究科／商学研究科
専門職大学院 法務研究科（法科大学院）

SDGs達成につながる「社会知性の開発」をめざして

学長
佐々木 重人

1955年生まれ。78年専修大学商学部会計学科卒業。83年同大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（経営学）。95年同大学商学部助手。96年同教授。2013年商学部長。11～13年税理士試験委員。16年から現職。専門は会計史。著書に『近代イギリス鉄道会計史―ロンドン・ノースウェスタン鉄道会社を中心に―』など。

――貴学が掲げる「社会知性の開発」を具現化する取り組みについてお聞かせください。

専修大学は、明治期にアメリカに留学した４人の若者が「自分たちが受けた恩を社会に還元し、国の発展のために尽くす」という思いのもと、1880年に「専修学校」を創立したことに始まります。本学の建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性の開発」という教育目標を21世紀ビジョンに据え、大学で身に付けた知識や技能を、社会の諸課題の解決のために活用できる人材育成に尽力してきました。

「社会知性の開発」を推進していくためのキーワードは「深い人間理解」「倫理観」「独創的な発想」「地球的視野」の４つとなります。現在、私たちはこのキーワードを軸に教学マネジメントの整備を進めており、来年度から授業科目と修得しうる能力との関連性を示したカリキュラムマップの運用を始めます。これにより学生の学修到達度を可視化することが可能となり、さらなる教育の質の向上が実現します。

――コロナ禍における学生へのサポートはいかがですか。

昨年と今年、学部生を対象とした大規模なアンケート調査を実施。学生の声に真摯に向き合い、オンライン授業の質の向上やインターネット環境の整備などを行ってきました。また、既存の経済支援奨学金に加えて、緊急支援奨学生制度を新たに設け、学生に対し上限20万円の授業料減免を行うなど、さまざまなサポート体制を強化しています。

――創立150周年は、SDGsの目標達成年と重なります。

SDGsの理念は本学の教育目標とシンクロしており、学内における関心を高めるために「SDGsチャレンジプログラム」を昨年から開催し、学生による提案実践をサポートしています。また、デジタル化社会に対応する「Society 5.0 for SDGs」として、来年度から全学部でデータサイエンス教育も始まります。SDGsの目標達成年である2030年は、本学の創立150周年と重なります。これを偶然の一致とは考えず、今後もさまざまな連携を通して、地域や社会に広く貢献していきたいと考えています。

日本大学

企画広報部企画課 〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24　Tel 03-5275-9284　https://www.nihon-u.ac.jp
法学部／文理学部／経済学部／商学部／芸術学部／国際関係学部／危機管理学部／スポーツ科学部／理工学部／生産工学部／工学部／医学部／歯学部／松戸歯学部／生物資源科学部／薬学部／通信教育部／短期大学部／大学院／専門学校／高等学校／中等教育学校／中学校／小学校／幼稚園／認定こども園

総合大学のスケールメリットを生かし「自主創造」精神を持った人材を育成

学長
加藤 直人

1979年日本大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士後期課程満期退学。博士（文学）。専攻は東洋史で、満族史研究会会長、内陸アジア史学会常任理事、東方学会学術委員を務める。日本大学文理学部教授、文理学部長、大学院文学研究科長、大学院総合基礎科学研究科長、副学長を歴任。2020年9月から現職。

――教育理念「自主創造」に基づく、特色ある教育・研究についてお聞かせください。

日本大学の教育理念である「自主創造」とは、学生が自ら考え、自ら学び、自ら生きる道を切り開いていく精神のことです。創造力に優れ、主体的に組織をリードする人材を育成することを教育目標としています。

教育面では、全学共通教育科目「自主創造の基礎」や学部間の垣根を越えた大規模交流授業「日本大学ワールド・カフェ」、全学部の学生・教職員が参加する学生企画・立案型FD「CHAmmi-Ti」、日大生の〝やってみたい〟を実現する「日本大学自主創造プロジェクト」など、本学ならではの教育を展開しています。一方、研究面では教育の基盤となる時代に即した国際的水準の研究活動を展開するため、独創的・先駆的研究成果の創出とその社会還元につながる研究を発掘し、重点的な支援ができるよう研究助成制度を充実させました。

――総合大学のスケールメリットを生かした取り組みは。

本学は、16学部87学科、大学院19研究科、さらに38研究所・研究センター（本部・学部設置）を有する我が国有数の〝知の共同体〟です。医学から芸術までさまざまな分野における第一線の研究者を擁し、我が国だけでなく世界をリードする教育・研究機関となるべく日々努力を続けています。研究成果については、産官学連携知財センターが助言・援助を行っており、特許の出願、収入ともに国内私立大学の中でトップレベルを誇っています。

――コロナ禍における学生へのサポートはいかがですか。

本学では、希望する学生・教職員等に対し、新型コロナウイルスワクチンの「職域接種」をキャンパス内でいち早く実施したほか、「日本大学健康観察システム」を学生に提供し、健康管理を徹底しています。

また、経済的に困窮している学生に対しては、各種奨学金を設けて支援しています。さらに新型コロナウイルスに関する不安やストレスをはじめ、各種悩みごとなどのメンタルヘルスケアに対応すべく、大学全体として学生支援センターを、各学部にも学生支援室を設け、学生の声に即応する体制を整えています。

法政大学

HOSEI University

入学センター 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1　Tel 03-3264-9300　http://www.nyushi.hosei.ac.jp
学部 法学部／文学部／経済学部／社会学部／経営学部／国際文化学部／人間環境学部／現代福祉学部／キャリアデザイン学部／GIS（グローバル教養学部）／スポーツ健康学部／情報科学部／デザイン工学部／理工学部／生命科学部
大学院 人文科学／国際文化／経済学／法学／政治学／社会学／経営学／人間社会／政策創造／公共政策／キャリアデザイン学／スポーツ健康学／情報科学／デザイン工学／理工学
専門職大学院 法務研究科／イノベーション・マネジメント研究科

自由で多様性あふれる教学環境を整え、国内外の課題解決に貢献する人材を育成

総長
廣瀬 克哉

1958年生まれ。奈良県出身。専門は行政学・公共政策学・地方自治。81年東京大学法学部卒業。87年同大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。法学博士（東京大学）。87年法政大学法学部助教授。教授を経て2012年法学部長、学校法人法政大学評議員、副総長を歴任。21年から現職。日本私立大学連盟常務理事、大学基準協会大学評価委員、自治体議会改革フォーラム呼びかけ人代表など学外でも活躍。

――15学部38学科を擁する全国でも有数の総合大学ですが、学びの特長を教えてください。

本学では「専門知」としての専門性を高めることと、多様な学問分野も学び、社会の課題解決に繋がる実践力を「実践知」として身に付けることを重視しています。そのため、所属学部の学びのみならず、学部横断的な学びを選択しやすい仕組みを整えています。

一例として、多くの学部で専門科目を他学部に公開し、卒業所要単位として認定する「公開科目（約500科目）」を設けています。また、学部が認めた学業成績優秀者に対しては「他学部科目履修制度」を与え、文系・理系・教養科目を合わせて約2000科目の中から興味関心に応じた授業を受けることができます。同時に、理想とするキャリア形成に必要な時間割を自ら組み立てる構成力も養うことができます。

――これまでよりさらに学外との連携を推進されていますが。

本学のミッションの一つである「持続可能な地球社会の構築」に貢献する学生を育成するため、企業や自治体、国際機関などとの多角的なコラボレーションを推進しています。学部不問の「サティフィケートプログラム」では、「SDGs」として集約された全17テーマのいずれかに関連する学びの機会が用意されています。その一つ「アーバンデザイン」は、ハード面とソフト面双方の視点から都市計画や都市生活の設計プロセスを学ぶプログラム。工学、経済、法学、環境といった多様な専門知を結集させ、文理融合型の実践知を高める学びを進めています。

玉川大学

教育情報・企画部広報課 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1　Tel 042-739-8710　https://www.tamagawa.jp
学部 文学部／農学部／工学部／経営学部／教育学部／芸術学部／リベラルアーツ学部／観光学部
大学院 文学研究科／農学研究科／工学研究科／マネジメント研究科／教育学研究科／脳科学研究科
専門職大学院 教職大学院

異分野融合の「ESTEAM教育」でイノベーションを創出する人材を育成

学長
小原 芳明

1946年東京都生まれ。スタンフォード大学大学院教育政策分析専攻修士課程修了。87年玉川大学文学部教授。94年玉川学園理事長、玉川大学学長、玉川学園学園長に就任。現在、日本私立大学協会会長、公益財団法人私立大学退職金財団理事長を務める。「教育の挑戦」「ハーバード大学の戦略」など著書・訳書多数。

※1 VUCA：Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を合わせた言葉
※2 ELF：English as a Lingua Franca
※3 ESTEAM：ELF, Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics

――貴学が目指す教育とは。

コロナ禍もあり、近年は先の予測が困難なVUCA（※1）の時代といわれますが、本学が100年にわたって実践してきた全人教育、すなわち「真・善・美・聖・健・富」という6つの価値を創造する教育は、いつの時代でも必要な教育であると自負しています。ただし、単にそうした価値や知識を継承すればよいわけではありません。重要なのはそれらを組み合わせ、新たな価値・創造を自ら生み出す力を育むことです。そのためには、履修した科目の数や出席日数ではなく「何を身に付けたか」を重視する、「履修主義から修得主義への転換」が必要です。現在は対面とオンラインを融合したハイブリッド形式で授業を行っていますが、自ら学びを深められるオンライン教育も修得主義という考え方に合っており、今後も新たな学修様式として活用していく予定です。

――独自の「ESTEAM教育」を推進されていますね。

社会の課題が複雑化し、その解決には単一の学問ではなく学際的なアプローチが不可欠です。そこで本学が推進しているのが、科学、技術、工学、芸術、数学を融合させ、ELF（国際共通語としての英語）を加えた「ESTEAM（※3）教育」です。先頃、その拠点となる施設を集めたESTEAMエリアが完成しました。施設に付随する「メーカーズフロア」は、学生が学部の枠を超えて自由にものづくりに取り組める場です。例えばここで、小学校のプログラミング教育用の教具を、教育・工芸術学部の学生が一緒に作れば、より子供の興味を引く魅力的な教具ができるでしょう。異なる学問との出合いを通じて新たな発想が生まれることを大いに期待しています。

――新たな研究施設「Human Brain Science Hall」とは。

脳科学を中心とする総合人間科学研究の拠点で、脳波室やMRI室などを設置しています。脳は人間にとってファイナル・フロンティアといわれ、その研究はロボットや教育など多様な分野の発展に寄与します。本学は1976年に研究を始め、文部科学省の支援事業に採択されるなど実績を積んできました。今後は国内外とも連携し、研究をさらに進展させていきます。

武蔵大学

MUSASHI UNIVERSITY

広報室 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1 Tel 03-5984-3813 www.musashi.ac.jp
学部 経済学部／人文学部／社会学部／国際教養学部 2022年４月開設
大学院 経済学研究科／人文科学研究科

「ゼミの武蔵」〝ゼミで磨く、世界を生き抜く力〟

学長
山嵜 哲哉

1957年山口県生まれ。81年早稲田大学第一文学部卒業、90年同大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得退学。91年武蔵大学人文学部専任講師、93年同助教授、2000年同社会学部教授。社会学部長等を経て、14年から現職。

――伝統ある少人数教育や新たなグローバル教育の取り組みについてお聞かせください。

本学は創立以来、徹底した少人数教育を重視し、「ゼミの武蔵」を標榜してきました。ゼミは4年間必修で、教員や仲間との交流の中で、幅広い教養を培うリベラルアーツに重点を置いた教育を実施しています。

2022年の学園創立百周年に向けて、各学部の特性に応じたグローバル科目やコースを設置し、〝グローバルリーダー〟の育成を目指しています。

――どのような科目やコースですか？

経済学部は、海外で就業体験する「海外インターンシップ」と、課題解決型授業に取り組む「グローバル企業研究」の2つのグローバル科目を新設。人文学部は、外国語運用を特訓する「グローバル・チャレンジ」と物事を俯瞰的に捉える目を養う「グローバル・ヒューマニティーズ」のグローバルプログラムを新設します。社会学部には、世界共通言語の「英語」と「データ」のスキルを磨く設置5年目の「グローバル・データサイエンスコース」があります。

――キャリア教育や産学連携でも特長は？

本学では1年次から就業観を育成し、3年次には全員面談を行っています。一人ひとりに合った計画を立て、学生が自分で選択・決断していくプロセスを支援しています。また、企業からの課題に複数の学部の学生が協働して解決策を考える「学部横断型ゼミナール・プロジェクト」や来年度から全学部選択可能な副専攻になるアントレプレナーシップも成果を挙げています。

――国際教養学部を開設とのことですが？

国際教養学部にある2つの専攻のうち経済経営学専攻は、本学の学位と並行して、ロンドン大学の経済経営学士号の取得をめざす「パラレル・ディグリープログラム（PDP）」を提供。今年度は11名がロンドン大学の学位取得要件を満たしました。グローバルスタディーズ専攻は、高度な語学力を養い、国際関係、コミュニケーション、文化の側面から学際的に学びを深めます。

世界的なパンデミックの中、今こそ地球規模の課題と向き合う教養あるグローバルリーダーの育成に取り組んでいきます。

東京工科大学

広報課 〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1　0120-444-903（広報課）　https://www.teu.ac.jp/
学部 ［八王子キャンパス］工学部（機械工学科、電気電子工学科、応用化学科）／コンピュータサイエンス学部／メディア学部／応用生物学部
［蒲田キャンパス］デザイン学部／医療保健学部（リハビリテーション学科［言語聴覚学専攻／理学療法学専攻／作業療法学専攻］、看護学科、臨床工学科、臨床検査学科）
大学院 ［八王子キャンパス］工学研究科／バイオ・情報メディア研究科
［蒲田キャンパス］デザイン研究科／医療技術学研究科

実学主義×ICTでシナジーを発揮 SDGsを牽引する人材を育成

学長
大山 恭弘

アドバンスト・コントロール・ラボラトリ株式会社取締役を経て、1991年、東京工科大学着任。制御工学、メカトロニクス、オンライン教育システムなどの教育研究に従事する一方、イリノイ大学客員研究員、東京工科大学学生部長、教務部長、工学部長、副学長等を歴任。2020年4月から現職。

――次代を担う理工系総合大学ならではの教育・研究とは。

本学は、1986年の創立以来「実学主義教育」を掲げ、教育・研究環境の整備を進めてきました。その間、工学部、コンピュータサイエンス学部、メディア学部、応用生物学部、デザイン学部、医療保健学部の6学部および大学院を擁する理工系総合大学へと発展し、時代の要請や社会の変化に対応できる人材を育成してきました。この伝統を受け継ぎ、さらなる教育・研究体制の拡充を図ってまいります。研究面においては最先端のテーマに取り組んでおり、産官学連携で航空機等に活用される革新的工業材料の開発や、二酸化炭素削減に貢献する循環型生物資源を用いたプラスチックの開発などを行っています。またICT分野以外でも、デザインや医療、バイオの領域まで幅広い分野においてAI研究を推進しています。

一方、工学部で導入している「コーオプ教育」を八王子キャンパスの全学部に広げました。企業の現場で長期間働き、報酬を得るプログラムであり、この経験によって学生の意識は大きく変わり、実践力と就業力が向上します。

――新型コロナウイルスへの対応についてはいかがですか。

本学ではノートPCを用いた授業をおよそ20年前から開始しており、長い実績があります。現在では全学生ノートPC必携で、教育・学修支援を実現するプラットフォーム「Moodle」を導入するなど、先駆的な学修環境を実現。このようなノウハウの蓄積により、遠隔授業への移行も非常にスムーズでした。

――年額130万円・最長4年間支給の奨学生入試があるとお伺いしましたが。

奨学生入試は、奨学生合格者（103名）として入学した方に、年額130万円を最長4年間支給。毎年多くの出願がありますが、遠方の試験場を拡大して、仙台、さいたま、新潟、静岡、名古屋と本学2キャンパスとなり、より受験しやすい体制に進化しました。奨学生としての合格に届かなかった場合にも、一般選抜合格者と同等以上の学力を有する方には入学を許可する制度もありますので、ぜひ、多くの方にチャレンジしてほしいと思います。

立教大学

RIKKYO UNIVERSITY

入学センター 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 Tel 03-3985-2660 https://www.rikkyo.ac.jp
学部 文学部／異文化コミュニケーション学部／経済学部／経営学部／理学部／社会学部／法学部／観光学部／コミュニティ福祉学部／現代心理学部
大学院 キリスト教学研究科／文学研究科／異文化コミュニケーション研究科／経済学研究科／経営学研究科／理学研究科／社会学研究科／法学研究科／観光学研究科／コミュニティ福祉学研究科／現代心理学研究科／ビジネスデザイン研究科／21世紀社会デザイン研究科／人工知能科学研究科

真のリベラルアーツ教育でグローバル社会を生き抜く力を身に付ける

総長
西原 廉太

1962年京都府生まれ。87年京都大学工学部卒業、94年聖公会神学院でB.D（神学士）、95年立教大学大学院文学研究科で神学修士、2013年関西学院大学で博士（神学）を取得。専攻はアングリカニズム、組織神学、現代神学など。2007年から立教大学文学部キリスト教学科教授に就任。文学部長、副総長、立教学院副院長等を歴任し21年から現職。

――創立以来大切にしていることは何ですか。

本学の歴史は、米国聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズが1874年に創立した「立教学校」から始まります。キリスト教が厳しく弾圧されていた時代に聖書と英学を教える私塾を開くのは、計り知れない苦闘があったことでしょう。それでもウィリアムズは教え伝えること自体が自分の使命だと確信し、需要のない中でも教育を行う道を選択しました。

147年を経た現在でも、その姿勢は失われていません。立教大学は世間のニーズに応える形でのみ教育を展開するのではなく、「普遍的真理を探究し、この世界や社会のために働く者を生み育てる」というミッションのもと、人類が築き上げてきた知の体系とそれらを社会に還元していく力をもつ人を育む場として存在しているのです。

――リベラルアーツ教育に注力していると伺いましたが。

本学の教育方針の基軸であるリベラルアーツは、単なる教養教育を意味しません。人類が長い歴史をかけて探究してきた未だ到達し得ない理想―それを追い続けることの価値を提示する、いわば「夢を語り、ビジョンを抱かせる」教育です。

――その実践には、ある種の「覚悟」が必要ですね。

西洋の伝統を受け継いだ、本物のリベラルアーツ教育の実践のためには、立教大学はある意味で「危険な場」になる必要があると考えています。批判すること、されることを恐れず、真理とは何かを問い続ける。常識や定説、権威を疑い、相対化させる。オリジナルの現象や原文にあたり確かめる。時には自らの考えが真っ向から否定されることもあるかもしれません。しかし臆せずに自己を再構築し、世界を読み解き変化をもたらす力を育んでほしいと思います。

――そういった切磋琢磨が次代のリーダーをつくると。

リベラルアーツ教育で身に付けた力を世界の舞台で発揮できるよう、英語と同等に重要なリーダーシップスキルを高める独自のプログラム（「立教GLP」）を全学部対象に用意するなど、国際感覚とコミュニケーション能力でグローバル社会を生き抜く国際人を輩出していきます。

東京理科大学

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3　Tel 03-3260-4271（代）　https://www.tus.ac.jp/
学部 理学部第一部／工学部／薬学部／理工学部／先進工学部／経営学部／理学部第二部
大学院 理学／工学／薬学／理工学／先進工学／経営学／生命科学

「実力主義、未来のために」未来を切り拓く人材を育て世に送り出す

学長事務取扱
岡村 総一郎

1984年東京理科大学工学部電気工学科を卒業。89年同大学院工学研究科電気工学専攻博士課程を修了。工学博士。東京理科大学助手、山口東京理科大学講師、奈良先端科学技術大学院大学助教授等を歴任し2005年から東京理科大学教授。専門は強誘電体薄膜などの構造・機能材料研究分野。

――再定義された東京理科大学ならではの「実力主義」とは。

実力主義は、1881年の創立以来脈々と受け継がれ、これまでは「真に実力を身に付けた学生だけが卒業できる」と概ね解釈されてきました。しかし、近年の大学を取り巻く環境が複雑化・多様化する中にあって、東京理科大学で育むべき次代の実力主義においては、「未来を拓く実力」として、①教養と倫理観を備え、人々や社会の求めに対し使命感を持って応え、世界の発展・持続に率先して貢献する意志＝ノブレスオブリージュの精神②高い専門性と、その構築で培った論理的思考力とエビデンスにもとづく科学的思考力③自然や社会の中から新たな問題を感知し、独自の視点と柔軟な思考によって新しい学問領域やイノベーションを創出する力④グローバルで高度に専門化した社会で、多様な人々と積極的に交わり、専門分野の壁を越えて共にものごとを創り上げる共創力―などの精神と能力と定義しました。

――学部・学科再編の目的について教えてください。

新型コロナウイルス感染症の蔓延など、世界は大きく変わり、複雑で不確実な時代に即した教育研究や人材育成に向けて、大学自身も変化を恐れず、前進することが必要です。

先進工学部は、基礎科学×先進工学×デザイン思考を組み合わせたこれまでにない学びを通し、現代産業のみならず未来でもイノベーションを次々と生み出すことのできる人材育成に取り組みます。

国際デザイン経営学科は、人々が直面するニーズや課題を「共感」の力で捉え、技術とビジネスの懸け橋となる人材を育成し、グローバルかつ多様性ある社会で、イノベーティブなチーム作りに欠かせないコミュニケーション力、失敗を恐れないチャレンジ精神、豊かな創造力を養成します。

本学の建学の精神は「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」で、英語では〝Building a better future with Science〟と表現します。地球規模でのより良い未来のために、一人でも多くの科学技術を活用するイノベーションリーダーを輩出することが東京理科大学の使命であると捉えています。